

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	保健福祉局地域共生社会推進部介護イノベーション推進室
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 指定概要

指定管理施設	名 称	北九州市立介護実習・普及センター 「テクノケア北九州」	施設類型	目的・機能
	所 在 地	北九州市小倉北区馬借一丁目7番1号		
	設置目的	介護に関する知識及び技術並びに介護機器の普及を図ることにより、市民の高齢者福祉に対する理解及び参加の促進に資する。 (北九州市社会福祉施設の設置及び管理に関する条例に基づく)		
利用料金制の状況		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
指定管理者	名 称	麻生教育サービス株式会社北九州支店		
	所 在 地	北九州市小倉北区馬借一丁目12番7号本松ビル303号		
指定管理業務の内容		1 介護テクノロジー機器の展示 2 介護テクノロジー機器及び介護技術に関する専門的支援 3 介護テクノロジー機器及び介護技術に関する普及・啓発 4 関係機関とのネットワーク構築		
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日		

【参考：評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2 評価結果

評価項目	指定管理者 の自己評価	市（所管局） の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との 相違理由 など	配点	得点 (評価結果)
	(評価レベル：0～5)			(100点満点)	
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				50	36
(1) 施設の設置目的の達成	2	3	来館者数は施設リニューアルに伴う施設閉鎖や利用制限の影響で目標未達成となったが、オンライン相談や電話など、来館せずとも相談ができる体制を拡充したことで、相談件数が指定管理更新前実績の1.7倍に達している。相談支援拠点としての機能を向上させた点は、高く評価できる。	35	21
(2) 利用者の満足度	5	5	職員が積極的に研鑽を積み、それによって得た知識をもとに、相談対応を行うことで、利用者の満足度は、99.1%と高くなっており、自己評価は妥当と考える。	15	15
2 効率性の向上等に関する取組み				20	12
(1) 経費の低減等	3	3	費目間の調整により人件費増をカバーし、総額を計画通りに収めている。	20	12
(2) 収入の増加	—	—	施設の設置目的から、収入の増加を求める業務ではないため、評価の対象外としている。	—	—
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				30	24
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況	4	4	経験年数が10年以上の専門職を配置し、人材育成にも取組み、質の高い相談体制を構築している。アンケートにおいても、職員の接遇や説明について好評であった。また、取材や視察対応についても積極的に受け入れている。	20	16
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制 など	4	4	多角的な相談体制に加え、手話対応や誘導マット、認知症への配慮など、障害の有無や来館の可否を問わず、市民が平等に利用できる工夫が凝らされている。また、安全対策や危機管理についても、マニュアル整備や教育が徹底されており、高く評価できる。	10	8

【参考：総合評価ランク】	
A：優れていると認められる	(80点以上)
B：やや優れていると認められる	(70点以上80点未満)
C：適正であると認められる	(60点以上70点未満)
D：努力が必要であると認められる	(50点以上60点未満)
E：かなりの努力が必要であると認められる	(50点未満)

合 計	100	72
総合評価ランク (A～E)		B

【総合評価】 ※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総括的に記入してください。

施設来館者数は目標値を大幅に下回った。これは、リニューアルに向けた施設の利用制限や改修工事による閉鎖が主な要因と考えられる。次年度以降は、刷新された環境を活かして、目標達成に向けて広報および営業活動を強化し、来館者数の増加に努めてほしい。

一方で、ホームページにおける展示機器検索機能の導入や、オンライン・電話等を活用した相談体制の整備、経験豊富な専門職の配置による専門的支援の充実など、利用者の利便性及びサービスの質の向上に積極的に取り組んでいる点は評価できる。

また、これらの取組は、利用者アンケートにおける「満足度」や「説明のわかりやすさ」の高い評価にも表れており、利用者ニーズに応じた適切な施設運営が行われているものと認められる。

今後は、専門相談体制の維持・向上や利用者ニーズに応じた展示機器の充実に加え、関係機関との連携強化を通じて、高齢者や障害のある方、その家族、医療・介護の専門職、企業など多様な主体をつなぐネットワーク拠点としての機能をさらに発揮し、介護テクノロジーの普及及び活用の促進につながるさらなる取組の充実を期待する。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

リニューアルに伴い展示品が減少したかわりに展示方法に工夫がみられる。対面で実施しているアンケートについては、潜在的な改善要望を吸い上げられるよう、匿名性の確保や回収方法の工夫など、より客観的な調査手法への見直しを検討されたい。

<参考> 現指定期間中の評価結果

区 分	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)	平 均
評価結果 (合計得点)	72	—	—	—	—	72

※高評価のインセンティブ（更新制）について

- ▶ 1～3年目の平均点が75点以上の指定管理者（指定期間5年間の事業者に限る）について、1期に限り指定の更新（+5年間）を認めるもの。

※低評価のパナルティ（次期選定時の減点）について

- ▶ 最終年度を除く全指定期間中の平均点が59点以下の指定管理者について、同指定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から10点または15点をマイナス）するもの。

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	北九州市立介護実習・普及センター「テクノケア北九州」
	所 在 地	北九州市小倉北区馬借一丁目7番1号
指定管理者 （自己評価者）	名 称	麻生教育サービス株式会社北九州支店
	所 在 地	北九州市小倉北区馬借一丁目12番7号本松ビル303号
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
3Dプリンターを活用した自助具 等制作	☒	○	
	☐		
	☐		
	☐		
	☐		
	☐		
自主事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
リクエスト講座	☐	○	
リユース事業	☐	○	
自助具制作	☒	○	
	☐		
	☐		

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント		自己評価				
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み						
(1) 施設の設置目的の達成		評価レベル (0～5)				
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。		2				
【評価の理由、要因・原因分析】						
① 目標の達成 ・来館者数は、目標値を達成できなかった。施設のリニューアルオープンの予定は当初8月であったため、春から夏にかけて見学等の施設利用の制限を行ったのに加え、リニューアルオープンが11月にずれ込んだため、その間十分な広報を行うことができず、見学等を受け入れることができなかった。また、改修工事による閉鎖期間（9月6日から9月10日）があったこと、併設していた喫茶やすらぎの閉業も影響したと考える。 令和8年度は、年間を通した広報活動を行い、目標達成に取り組む。						
【全来館者数】(単位:人)						
【来館者数】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)
目標値	13,000	10,000	11,000	12,100	13,300	14,600
実績	9,431	7,350				
② 利用者の増加や利便性向上の取組の効果 ・相談件数は4,532件であり約半数が来館での相談であった。電話相談1,726件のほか、メール、訪問、オンライン等、来所が難しい場合にも十分に対応することができた。 ・ホームページにて、展示品を検索し閲覧することができる仕組みを構築しており、展示場への来館が困難な場合においても情報提供をできるようにしている。						

【相談件数】(単位:件) ※「その他」は、研修会の会場等での相談

	来館	電話	メール	オンライン	訪問	イベント等 来場	FAX・ その他	合計
R6 年度	1,619	787	5(FAX 含む)	-	219	-	-	2,630
R7 年度	2,125	1,726	424	18	198	28	13	4,532

- ・令和7年度から休館日を変更し、土曜日を開館としたところ、来館者及び相談利用については、下記のとおり一定の利用があった。引き続き、広報活動に力を注ぎ、今後の利用増加につなげていきたい。

【曜日別来館者数(人)および相談件数(件)】

	日	月	火	水	木	金	土	合計
来館者数	856	40	1,375	1,217	1,485	1,301	1,076	7,350
相談件数	337	17	1,019	973	940	860	386	4,532

- ・相談者を行政区別で見ると、当施設の所在区である小倉北区が最も多かった。他区からの利用促進に向けて、令和7年度は提案時の訪問目標である20か所を超えて、市民サブセンターを除く、全130か所の市民センターへの訪問を行った。

【行政区別に見た相談者数】(単位:人)

門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区	市外	不明	合計
197	1,188	460	64	289	374	133	543	1,284	4,532

③ 該当なし

④ 効果的な営業・広報活動による効果

- ・地域の病院や介護士養成校等が開催するイベント等に参加し、出張機器展示、相談窓口を設置し、介護テクノロジー機器の普及、啓発活動を実施した。福祉用具や、介護テクノロジー機器に気軽に触れてもらうことができ、市民センター等での出前講座を開催するきっかけとなった。

【イベント出展】

出展回数	12回(14日)
イベントブースへの来場者数	5,300人
内容	・平岡介護福祉専門学校文化祭(2日間) ・鎌田式！健康塾(高齢者排泄相談支援事業) ・新小文字病院健康フェスタ ・小倉きふね病院健康フェスタ ・ゆめみらいワーク(2日間) ・福岡県作業療法協会 ・北九州市役所しごとクエスト 等

- ・ 職能団体等とのイベントの共同開催を行い、普及、啓発活動を実施した。

【イベント企画】

開催回数	11 回
参加者	182 人
内容	北九州高齢者福祉事業協会 福岡県ノーリフティングケア推進事業 北九州市の地域包括ケアを真剣に考える会 等

- ・ 取材対応を行い、介護テクノロジー機器の普及、啓発を実施した。

【取材対応】

回数	6 回
取材元	・公明新聞 ・共同通信社 ・NHK ・リビング北九州 他

- ・ 市民への普及啓発、情報提供のため、ホームページ、Instagram、フェイスブック、公式 LINE、YouTube チャンネルを開設した。YouTube は開設が 3 月となったため、再生数は少なかった。

【普及啓発ツール】

ホームページ 閲覧数	Instagram 閲覧数	フェイスブック 閲覧数	公式 LINE 登録数	YouTube 再生数
35,107	5,685,100	207,103	42	2

(2) 利用者の満足度

評価レベル
(0～5)

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

5

【評価の理由、要因・原因分析】

① 利用者アンケート

- ・ 利用者アンケート調査を 10 月 1 日から 1 月 31 日に実施した。来館者 300 名、訪問支援対象者 50 名の計 350 名より回答を得た。施設利用についての満足度は、来館者（300 名）は 99.0%、訪問支援対象者（50 名）は 100%であり、総数（350 名）の平

均は 99.1%であった。

【利用者アンケート結果】

【満足度】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
目標値	98%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%
実績	99%	99.1%	—	—	—	—
有効回答数	350 人	350 人				

② 利用者意見の把握・反映

- ・来館者における、リピート利用の意向についても満足度と同様、99.3%と高い水準であった。
- ・一方で、「不満」、「非常に不満」も 1.0%あり、対象者の知人やご家族から展示品が少ないことが理由として挙げられていた。展示品の満足度についても、71.3%となっておりやや低く、展示品の点数がリニューアル前に比べ少なくなったことを指摘する声が多かった。
- ・寝室やリビング等の生活空間をイメージしやすい展示に切り替えるとともに、機能が重複する機器を整理することにより、展示品点数は 3 割ほど減っており、上記のように感じられる利用者が多かったと思われる。今後も利用者に理解していただけるよう、専門職による説明、オンライン等の活用により、利用者満足度を向上できるよう努めていく。

	来館者(n=300)	訪問支援対象者(n=50)
センター利用の満足度	99.0%	100.0%
また利用したいか	99.3%	100.0%
展示品の満足度	71.3%	
案内表示等の満足度	87.0%	

③ 苦情対応

苦情については見受けられなかった。苦情が発生した場合は、接遇に気を付け、適切に対処したい。

④ 情報提供

(1) 施設の設置目的の達成④で述べた通り、複数の SNS の活用や地域活動などを通して、情報提供に努めた。

⑤ その他サービスの質の向上に向けた取組みとその効果

経験豊富な専門職を配置することで、きめ細やかな相談対応につながり、利用者満足度に寄与した。専門知識のブラッシュアップに向け、外部の研修会や展示会にも積極的に参加し、利用者への相談対応に還元できるよう努めた。

2 効率性の向上等に関する取組み							
(1) 経費の低減等		評価レベル (0～5)					
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。		3					
② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。							
③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。							
[評価の理由、要因・原因分析]							
① 経費の効率的な低減							
講座および研修の講師を内製化したことで、講師謝金や交通費等を削減することができた。							
② 経費が最小限となる工夫							
広報誌の発送について、封入・封緘・発送までを郵便よりも安価で請け負う事業者にも再委託したことで、当初の予定より費用、時間を大幅に削減できた。							
③ 経費の効果的・効率的な執行							
・介護実習・普及センター運営費においては、理学療法士2人、作業療法士3人、看護師1人、社会福祉士1人、介護福祉士1人と専門職を手厚く配置したことで、人件費は大きくなったが、専門相談の対応を高度化、充実させることができ、利用者満足度にもつながった。							
・先進テクノロジーに関する業務においても、北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センターに勤務経験のある職員を配置したことで、満足度の高い相談支援を実現できた。							
・排泄ケアに関する業務に、看護師を配置することで、疾患や原因に合わせた支援を実施することができた。また、日本コンチネンス協会に加入するとともに、研修、学会等に積極的に参加し、知識、技術の向上に努め、最新知見をもとに利用者へ助言した。							
【北九州市立介護実習・普及センター運営】		(単位：千円)					
【支 出】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)	
事業費	計画	—	4,865	4,280	8,277	8,094	7,994
	実績	—	3,007	—	—	—	—
人件費	計画	—	44,269	49,880	43,517	44,193	44,876
	実績	—	52,274	—	—	—	—
施設維持 管理費	計画	—	176	126	690	590	500
	実績	—	176	—	—	—	—
その他管	計画	—	5,355	3,201	5,964	5,964	5,644

理運営費	実績	—	3,887	—	—	—	—
一般管理費等	計画	—	5,798	2,976	1,492	1,463	1,414
	実績	—	1,118	—	—	—	—
消費税	計画	—	6,045	6,045	5,994	6,030	6,042
	実績	—	6,046	—	—	—	—
計(税込)	計画	—	66,508	66,508	65,934	66,334	66,470
	実績	—	66,508	—	—	—	—

令和7～8年度は年度協定、令和9年度以降は提案時の計画を記載。

(単位：千円)

【うち修繕費】	R6年度 (更新前)	R7年度 (1年目)	R8年度 (2年目)	R9年度 (3年目)	R10年度 (4年目)	R11年度 (5年目)
計画	—	0	0	0	0	0
実績	—	0	—	—	—	—

(2) 収入の増加

評価レベル
(0～5)

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 使用料(利用料金)収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入(例：協賛金など)を獲得できているか。
- ③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元取組みがなされたか。

—

【評価の理由、要因・原因分析】

- ・施設の設置目的から収入の増加を求められる業務ではないため、評価の対象外である。

(単位：千円)

【収 入】	R6年度 (更新前)	R7年度 (1年目)	R8年度 (2年目)	R9年度 (3年目)	R10年度 (4年目)	R11年度 (5年目)
指定管理料収入	計画	—	66,508	66,508	66,508	66,508
	実績	—	66,508	—	—	—

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

評価レベル
(0～5)

- ① 施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか(管理コストの水準、研

4

修内容など)。	
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。	

【評価の理由、要因・原因分析】

① 合理的な人員配置

質の高い相談対応を行うため、実務経験年数の多い専門職を適切に配置した。

また、市からの要求人員に加え、リハビリテーション専門職を1名多く配置したことで、来館対応や訪問支援だけでなく、数多くのイベントや出前講座などを実施することができ、利用者数の獲得につながった。

【人員配置】

	想定配置	実際の配置
管理者	1	1 ※理学療法士 ※介護ロボット等に関する実務経験9年
リハビリテーション専門職	3	4 ※実務経験20年以上3人、10年以上1人
介護ロボット相談支援員	1	1 ※実務経験10年以上 ※介護ロボット等に関する実務経験2年
看護師	1	1 ※実務経験20年以上
社会福祉士	1	1 ※実務経験10年以上
介護福祉士	1	1 ※実務経験10年以上
事務	1	1
合計	9	10

② 職員の資質・能力向上

- ・知識、技術の向上、情報収集のため、外部の研修会や展示会に積極的に職員を派遣した。
- ・職員の知識、技術の向上のため、外部の研修会や展示会に積極的に参加するとともに、職員の資格取得を推進した。新たに福祉用具専門相談員の講座を2人が受講し資格取得した。
- ・センター内部での勉強会を定期的に実施した。
- ・最新の情報収集のため、メーカー等を招聘した勉強会を開催した。

【スキルアップに向けた研修会等】

	外部研修会・展示会	内部勉強会	メーカー勉強会
回数	18回	23回	48回
内容等	CareTEX 福岡 国際福祉機器展(HCR) 日本作業療法学会	福祉用具、介護テクノロジー機器の操作、活用方法 等	メーカー、販売代理店等を招聘した機器の操作、活用方法 等

	日本コンチネンス協会スキルアップ研修 日本泌尿器科学会 日本老年泌尿器科学会 等		
③ 地域や関係団体等との連携や協働 ・地域リハビリテーション協力機関専門職派遣業務に登録し、職員を派遣した。また、リハビリテーション連絡協議会等へも積極的に参加し、地域のリハビリテーション専門職や行政機関等との情報共有や連携を図ることができた。 ・展示品については、メーカーからの無償提供を基本とし、すべての機器について適切に使用貸借契約を締結したことで、展示品の所在を明らかにするとともに、メーカーとの連携につながった。 ・6月、産学官金50団体が参画する「北九州超スマートケアコンソーシアム」が民間主導で設立された。これに伴い、趣旨を同じくする「北九州市介護ロボット等普及・開発ネットワーク」については、市と協議の上、同コンソーシアムの活用を集約することとした。 ・7月25日に第1回総会が開催され、参画団体とのネットワーク構築及び関係強化を図った。引き続き、介護現場のニーズや市民の課題等を共有し、介護テクノロジーの活用や機器開発の促進に寄与できるよう取り組んでいく。			
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など			評価レベル (0～5)
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。 ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。 ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。 ④ 施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。 ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。 ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。 ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。			4
【評価の理由、要因・原因分析】 ① 個人情報保護対策 ・麻生教育サービス株式会社として、Pマークを取得しており、個人情報の保護の取り扱いに関し厳重に対策を講じている。 ・インターネット回線については、UTMを設置しており、ウイルス感染やハッキング等への防御態勢を構築している。 ② 平等利用 ・来館者の対応だけでなく、電話、メール、オンライン等、利用者の都合に合わせて			

相談ができる体制を整備している。

- ・来館困難者でも、介護テクノロジー機器の情報を収集できるよう、ホームページに展示品検索機能を備えている。
- ・難聴、失聴の方にも対応できるよう、スタッフは手話研修を受講し、手話技能を身につけている。また、相談カウンターに助聴器を設置している。
- ・相談カウンターにモニターを設置し、パソコンでの検索結果などの情報を相談者が閲覧できるようにしている。また、老眼鏡を設置している。
- ・視覚障害の方向けの誘導マットを入り口から相談カウンターまで敷設している。
- ・車いすでも展示場内を回遊できるよう、通路幅、展示品の間隔を広くとっている。
- ・展示場内で休憩できるようソファ、椅子を多く設置している。
- ・市民に広く情報提供できるよう、地域の活動に積極的に参加しており、出張展示 14 件、出前講座 28 件を実施した。
- ・認知症にやさしいデザインを取り入れ、安心して利用できる環境へ改修した。

③ 該当なし

④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容

経理及び法定管理は全てクラウド化にて、人的ミスや業務負担を軽減の上、適切に管理している。

⑤ 安全対策、⑥危機管理体制

日常の点検、事故防止等に関しマニュアルを策定しており、職員への教育、実践を徹底している。

⑦ 事故・災害対応

事故発生や、非常災害はなかった。

【総合評価】

〔全体的な評価・今後の対応等〕

- ・来館者数は目標を達成できなかった。次年度以降はより一層、広報活動、他団体等との活動協力等を積極的に実施し、来館者数増につなげていく。
- ・リニューアルオープンに向けて、展示品の整理、改修準備等を滞りなく行うことができた。重複した機能をもつ展示品の整理等によって展示点数が減少したため、市民から不満の声が寄せられた。利用者に寄り添ったきめ細かい相談対応を行い、専門的知見に基づいた機器選定を実施することで、利用者の理解を得られるよう努めた。今後も利用者の満足度に寄与できるよう研鑽を積んでいく。
- ・前事業者から展示品を引き継いだ際、貸借契約が不明なもの等が相当数あったが、すべての機器の契約を整理し、新たに使用貸借契約を締結した。これにより、すべての展示品の実態を把握でき、展示品を提供するメーカー等との連携強化につながった。
- ・実績管理を Kintone で行い、常時、所管課と情報共有することで透明性の高い運営を行うことができた。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4		要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2		要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。